

防衛省

本省内部部局

専門職採用案内



〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町5-1

連絡先 / 防衛省大臣官房秘書課人事企画係

TEL.03-3268-3111(内線20218)

URL: https://www.mod.go.jp/jj/saiyou/ippan_senmon/se.html



この国を守る。
活躍の場は世界。



大臣官房長メッセージ

国際社会は戦後最大の試練の時を迎え、新たな危機の時代に突入しつつあり、どの国も一国だけで自国の安全を守ることは難しくなっています。

「日本の平和と独立を守り、国の安全を保つ」という防衛省の使命を全うするためには、我が国自身の防衛体制を強化するのみならず、様々な分野において各国との協力が欠かせません。

専門職の皆さんには高い語学力とグローバルな視野を活かし、特に、安全保障の文脈において各国との協力関係を強化していくことが期待されています。

拡大し続ける安全保障というフィールドで、日本、ひいては国際社会の平和と安定のために働きたいという高い志を持った皆さんをお待ちしています。

大臣官房長

中嶋 浩一郎



CONTENTS

組織概要 OVERVIEW	02 大臣官房長メッセージ 03 目次 04 防衛省の任務 06 組織図
業務紹介 MISSION	08 業務紹介01「日米同盟」 10 業務紹介02「同志国との連携」 12 業務紹介03「防衛力整備」 13 業務紹介04「自衛隊の運用」 14 業務紹介05「宇宙・サイバー・電磁波」 15 業務紹介06「インテリジェンス」 16 業務紹介07「在日米軍と地方自治体」 17 業務紹介08「防衛装備・技術協力」 18 業務紹介09「広報」 19 業務紹介10「高官通訳」
特集 SPECIAL CONTENTS	20 若手職員に聞くQ&A
キャリアパス CAREER PATH	22 キャリアパス 24 職員紹介 28 海外留学 29 海外勤務 30 地方勤務 31 他省庁への出向
働く環境 WORKING ENVIRONMENT	32 職員のある一日 33 WLBの紹介
採用 RECRUITMENT	34 試験概要・採用担当のメッセージ

防衛省の任務

防衛省・自衛隊は、我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つことを使命とし、国民の生命・財産と我が国の領土、領海、領空を守り抜くための取り組みはもちろん、国内外での大規模災害や国際平和協力活動を含む様々な事態に対応しています。

戦後の防衛政策は大きな転換点を迎え、防衛省・自衛隊の役割は新たなフェーズに入りました。

令和4年12月16日、国家安全保障会議及び閣議において、国家安全保障における基本方針である「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」が決定されました。

戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境の中で、防衛省・自衛隊は必要な防衛力を抜本的に強化し、国民を守る体制を作り上げていきます。

日本を取り巻く安全保障環境

国際社会が
戦後最大の試練の時を
迎える中で日本は

我が国周辺の安全保障環境は世界的にも特に厳しく、欧州で起きていることはこの地域でも起こる可能性があります。
「力による一方的な現状変更」を抑止するためには、相手の能力に着目しつつ、新しい戦い方に対応できる防衛力を備えた国家になる必要があります。



軍事力強化や軍事活動
活発化の最前線に位置

東シナ海、南シナ海を
めぐる問題に直面

MISSION

3つの防衛目標と実現のためのアプローチ

3つの防衛目標

力による一方的な現状変更を許さない
安全保障環境を創出



G7広島サミットを主催する岸田総理大臣
(2023年5月)

力による一方的な現状変更やその試
みを、同盟国・同志国等と協力・連携
して抑止・対処



米空軍戦略爆撃機等との共同訓練
(2023年7月)

我が国への侵攻が生起する場合、我
が国が主たる責任を持って対処し、同
盟国等の支援を受けつつ、阻止・排除



水陸両用作戦等の訓練(2023年7月)

3つのアプローチ

01 我が国自身の
防衛体制の
強化



02 日米同盟の抑止力と
対処力の強化



03 同志国等との連携の強化



本省内部部局採用専門職とは

国際社会の平和と安定のため、我が国が果たす役割が大きくなる中、防衛省における専門職の活躍の場は広がり続けています。中でも本省内部部局採用専門職は、国際的な安全保障政策の企画・立案の一翼を担うことが期待されています。

業務内容

- 日米防衛協力
- 諸外国との防衛協力・交流
- 国際平和協力活動
- 防衛装備・技術協力
- 在日米軍及び関連地方自治体との折衝
- 高官通訳 等

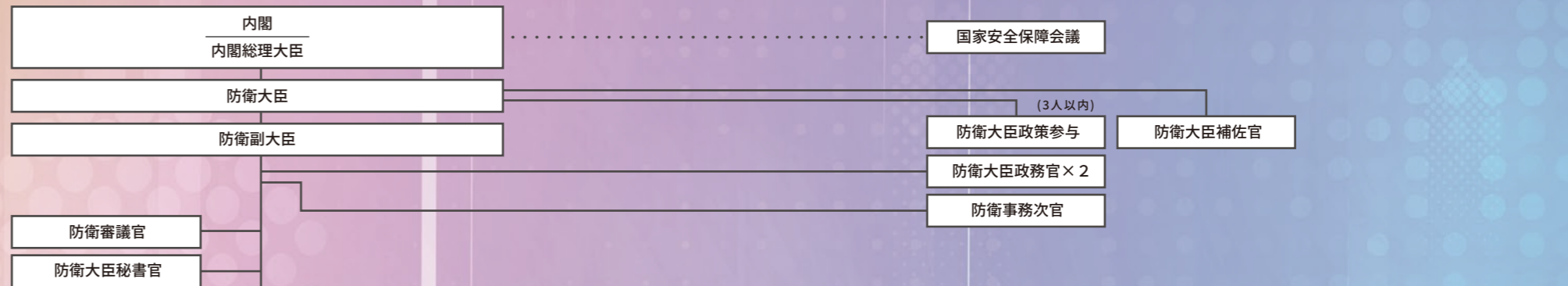
特徴

- 厳しさを増す安全保障環境において役割が拡大
- 若手のうちから活躍の機会が多い
- 海外出張、海外留学、海外勤務、高官通訳のチャンスも
- 日本をベースに世界で活躍できる

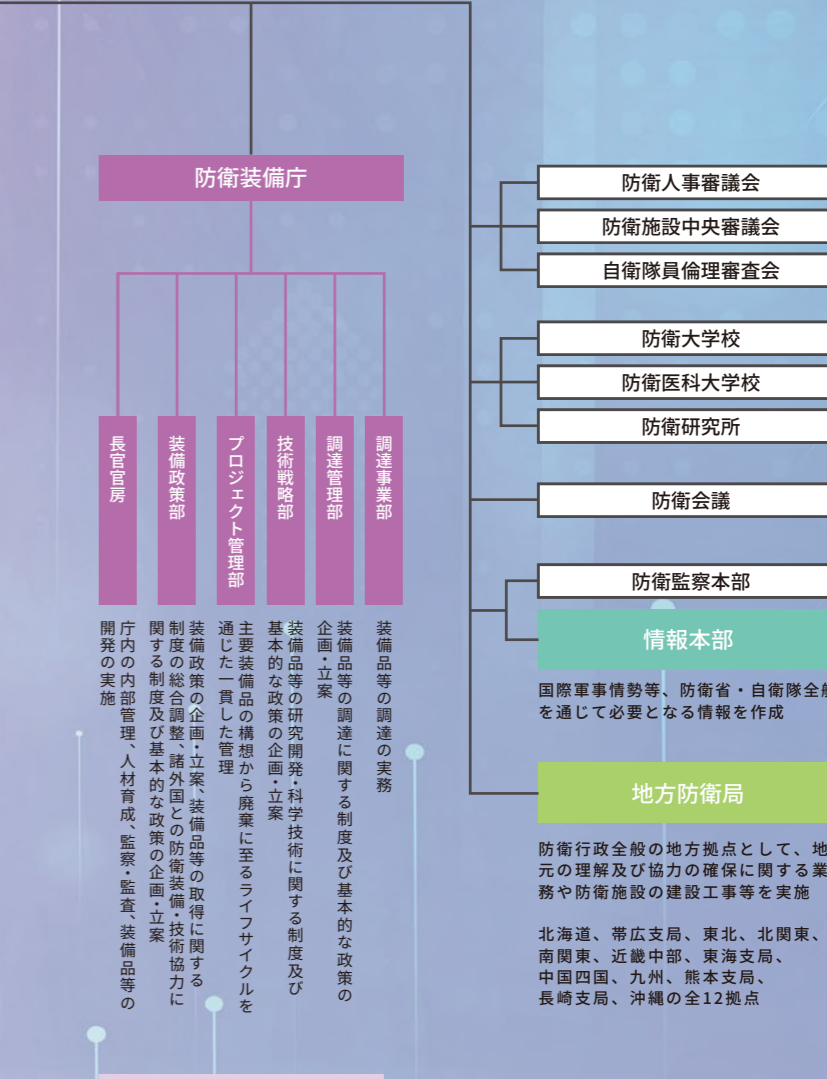
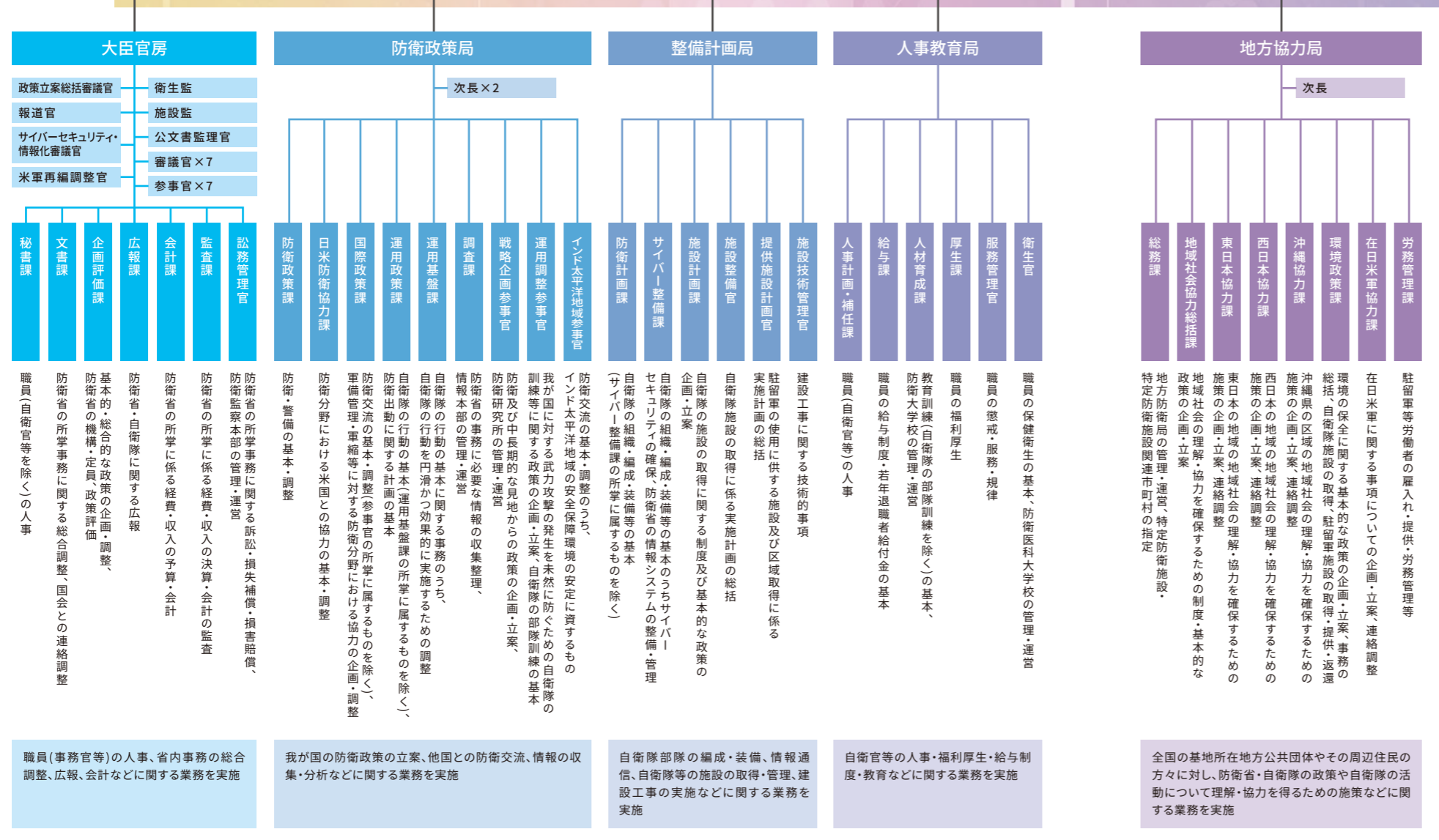
組織図

防衛省には、安全保障という大きな責任を果たすミッションがあります。

実力組織である陸・海・空各自衛隊を中心に、防衛大臣を政策的観点から補佐する本省内部部局、統合幕僚監部、陸・海・空各幕僚監部、防衛装備庁のほか、防衛大学校、防衛医科大学校、防衛研究所、情報本部、防衛監察本部、地方防衛局など様々な組織で構成され、それぞれが各部局と連携しながら、国防にあたっています。



内部部局



職員(事務官等)の人事、省内事務の総合調整、広報、会計などに関する業務を実施

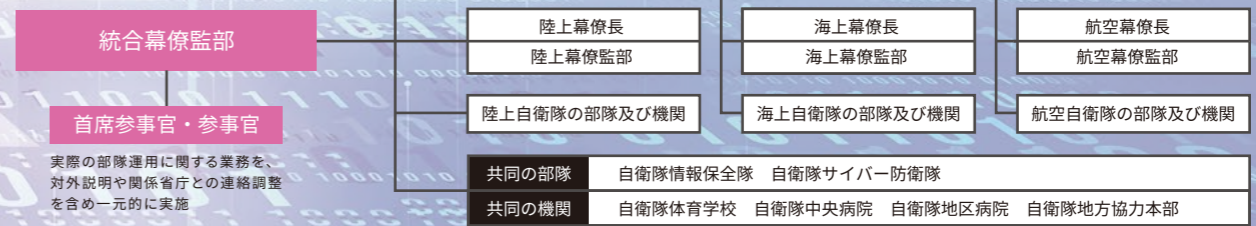
我が国の防衛政策の立案、他国との防衛交流、情報の収集・分析などに関する業務を実施

自衛隊部隊の編成・装備、情報通信、自衛隊等の施設の取得・管理、建設工事の実施などに関する業務を実施

自衛官等の人事・福利厚生・給与と制度・教育などに関する業務を実施

全国の基地所在地地方公共団体やその周辺住民の方々に対し、防衛省・自衛隊の政策や自衛隊の活動について理解・協力を得るための施策などに関する業務を実施

主要装備品のライフサイクルを通じた一貫したプロジェクト管理、諸外国との防衛装備・技術協力、技術的優越の確保、防衛生産・技術基盤の維持・強化等の防衛装備品に係る政策の企画・立案を一元的に実施



共同の部隊 自衛隊情報保全隊 自衛隊サイバー防衛隊

共同の機関 自衛隊体育学校 自衛隊中央病院 自衛隊地区病院 自衛隊地方協力本部

本組織図は組織の特徴等表現するため、防衛省の組織全てを精緻に表したものではありません。

01 日米同盟

日米の連携強化を目指して、
在日米軍の新たなアセット配備を

事務官として国を守る
力になるという想い

学生時代の専攻は法律でしたが、もともとは英語を勉強することが好きで、英語を活かす仕事に就きたいと考えていました。また自衛隊が災害救援などの場面で活躍していることを見て、防衛省や自衛隊への関心が高まり、事務官として働きたいという想いから志望しました。

我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す現在、日米同盟が抑止力として十分に機能するためには在日米軍のプレゼンスの確保などが重要です。その中で、私の日米防衛協力課でのミッションは、在日米軍の新たなアセット配備について、その意義や地元への影響などを踏まえて日米双方の関係者と調整し、配備をスムーズに進めることです。



防衛政策局
日米防衛協力課 部員
2001年入省

多岐にわたる日米間の協議にあたり、
様々な調整を担う醍醐味

数多くの日米会議に
向けて入念な準備

幼少期に米国で過ごした経験から、語学を活かせる仕事を志望していました。大学院では通訳や国際機関などでインターンとして翻訳の経験もあったので、防衛省に入省する際、語学の専門性を尊重してもらえたことが嬉しかったです。

日米防衛協力課は、多岐にわたる米国との協力の取りまとめ、在日米軍の事件・事故に関わる対応、そしてそれらに関わるハイレベルから実務者に至るまで様々なレベルでの協議の調整を担っている部署です。そのうち私の所属する班では、様々な会議に向けた調整を担当しています。特に日米2+2や日米防衛相会談は関係者も多く、入念な準備を経て会談を実施します。海外出張の機会もあり、やりがいのある仕事です。



防衛政策局
日米防衛協力課
係長
2014年入省

日米連携の調整役として尽力

この仕事の魅力は、達成感を得られることです。在日米軍が新たなアセットを日本国内に配備するにあたっては、日本に置くことの意義やアセット自体の安全性など検討・調整すべき事項が多数あります。米国側の意向がある一方で、日本側としても重視すべき、譲れないポイントもあり、そういった中での日米調整は時には困難を伴うこともあります。しかし、粘り強く綿密に調整を続けていくうち、日米間で方向性を一致させることができたことがあり、日米の連携強化などに資する政策を推進できたという達成感を得られました。



日米同盟の強化に微力ながら貢献したい

刻々と変化する国際情勢と隣り合わせの業務でもあるため、突発的な対応などで急に忙しくなることもあります。毎日新たな学びがあります。防衛相会談などの大きな会議が無事に終わり、出席者から「有意義な会議でしたね」と言われると、微力ながら日米同盟の強化に貢献することができたという達成感を得ることができます。

専門職で入省すると、時には通訳を担当することがありますが、担当者レベルの会議の通訳から徐々に高官の通訳を任せいただけるようになります。時にはプレッシャーを感じることもありますが、成長を実感することができる仕事です。



MESSAGE

志望者へのメッセージ

我が国を取り巻く安全保障環境はますます厳しくなり、防衛省が担うべき役割はどんどん拡大しています。そういった中で、防衛省の専門職は在日米軍などのカウンターパートと協力するなど能力を活かせる場面が多く、今後ますます活躍の場が広がると思います。ぜひ、チャレンジしてみてください。

MESSAGE

志望者へのメッセージ

防衛省専門職は、自身の専門性を磨きながら、幅広い経験を積む機会に恵まれています。私自身も、防衛政策局、地方協力局、そして防衛装備庁などの部署を経験し、自分の視野をさらに広げることができました。今は漠然としたイメージでも、防衛省での多岐にわたる仕事を通じて、きっと自分の得意分野が見つかるはずです。

02 同志国との連携

日豪協力のさらなる深化に向け、
より実効性のある協力体制を目指す

海外大学で学んだ経験を
活かせる仕事を志望

入省の動機は、学部課程を海外大学で学んだバックグラウンドを活かしたいと思ったからです。今まで学んだ知識とリンクし、英語を活用できる公務員という観点から防衛省が最も希望に合っていると思い志望しました。

現在は、日豪協力体制の促進に関わる仕事をしています。従来から緊密な協力関係を築いてきた豪州ですが、2022年の日豪首脳間における「安全保障協力に関する日豪共同宣言」の発出により、日豪防衛協力はこれまでの協力関係から一歩進んで実効性のある協力へと向かっています。省内外の日本政府関係者及び豪側関係者とひとつのチームになって、日豪協力のより一層の深化に向け、ハイレベルを含む会談実施や協力案件の促進に取り組んでいきたいと思っています。



防衛政策局国際政策課
日豪防衛協力推進室
係長
2011年入省

国内外問わず、様々な専門家と仕事ができる醍醐味

仕事の魅力は、多様な業務に携わることができる場所であると感じています。例えば、現在所属している日豪防衛協力推進室では、省内外、国内外を問わず様々な専門性や知見を持つ方々と一緒に仕事をするので、常に新しい学びや発見があります。皆で協力した結果が、大臣会談や共同声明などとして実を結んでいることにもやりがいを感じます。一方で、通訳として懇談や会議に参加させていただき、互いに難しい立場にありながらも率直で誠実な高官同士の会話や心に響くメッセージに出会うことができ、忘れられない場面をいくつも経験させていただきました。



M E S S A G E

志望者へのメッセージ

防衛省での仕事に興味を持っていただき、ありがとうございます。防衛省は大きな組織で、語学という専門性を通訳や翻訳、あるいは他国との調整の中で発揮するたくさんの方に恵まれています。また、活躍の場は語学にとどまらず、素晴らしい先輩方が組織の中核的な役割も担っています。ぜひ選択肢のひとつとしてご検討いただくと嬉しいです。

世界各国の担当と密に連携しながら、
多国間の防衛協力を検討・実施

日本ASEAN友好協力
50周年で大きな成果

法の支配を確保する手段が不十分な国際社会において、自分の国を自分で守ることが重要です。諸外国との信頼醸成や共同訓練を通じて人々の生活の基盤となる平和で安全な暮らしに貢献したいという思いから防衛省を志望しました。

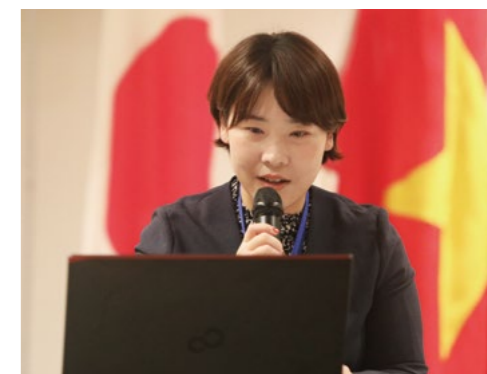
現在は、拡大ASEAN防衛相会議(ADMMプラス)など多国間協力を担当。我が国にとって望ましい安全保障環境の構築に向け、世界各国の担当と密に連携しながら、発信すべき内容や協力内容を検討し、実行に移す仕事をしています。2023年は日本ASEAN友好協力50周年の特別な年でしたが、日ASEAN防衛担当大臣会合の開催や、ADMMプラスPKO専門家会合の共同議長国として事業を成功に導くなど、防衛当局間にとっても実り多き一年にすることができました。



防衛政策局
インド太平洋地域参事官付
国際安全保障政策室 係長
2013年入省

多国間協力だからこそ得られる貴重な経験

多国間協力では、日頃はなかなか会えない国の大臣などとの対話の機会が得られること、またコンセンサスにより意思決定が行われるため、合意形成に向けて様々な国への働きかけに奔走するなど独特の面白さがあります。東京にいても毎日、様々な国とテレビ会議・メール・電話などでやりとりしていますが、多国間協力は「持ちつ持たれつ」の関係で成り立っているため、信頼関係は不可欠です。担当級の信頼関係の上に全ては成り立っています。大きな国際会議では特に多忙を極めますが、会議終了後、各国担当とお土産交換しながら、互いの労をねぎらう時間は共同声明の採択などオフィシャルな成果に劣らず感慨深いです。



M E S S A G E

志望者へのメッセージ

国際協力の重要性は増す一方のため、時には自己研鑽し、新たな視点を獲得する努力も必要です。1~2ヶ月に1度は海外に出かけ、勤務時間も短くありません。ですが、英語を活かして国防や国際平和に貢献できる唯一無二の仕事です。安全保障に関心があり何か問題意識を持っている方、英語を活かしたいと思っている方と一緒に働くことができれば嬉しく思います。

03 防衛力整備

日本の防衛のために、
自衛隊の防衛力整備を担当

空自・海自の
自衛官との連携

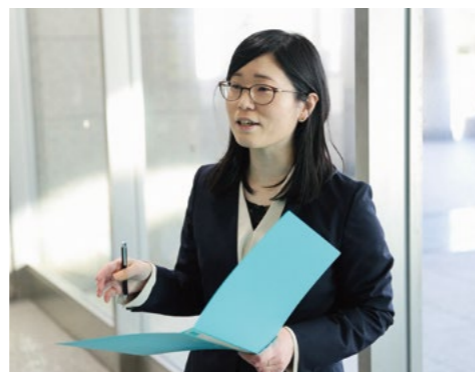
語学を活かせるとともに、人の役に立ちたいという想いから防衛省を志望しました。
現在所属する防衛計画課は、日本の防衛のための各自衛隊の防衛力整備を担当する部署です。その中でも、弾道ミサイル防衛(Ballistic Missile Defense (BMD))のための防衛力整備を担う班で、班の総括業務、米国政府や米国企業との調整、PAC-3関連業務、国会関連業務の補佐等を担当しています。日々の業務は、自衛官と調整することも多くあります。空自のみならず、海自のBMD関連の装備品もあるため、海自の自衛官と調整をしたり会議をしたりすることも日常的にあります。



整備計画局防衛計画課
係長
2013年入省

防衛力整備のための最前線の議論を経験

仕事において大変なことは、専門性が高く、技術的要素を多く含んだ業務内容であることです。これまで所属してきた部署と異なる業務ばかりで、一からのスタートだったため、転職したのかと思うほど初めて関わる業務内容が多かったです。課内の担当や各幕僚監部の自衛官に質問を重ね、引き続き積極的に勉強する必要があると思っています。
仕事の魅力としては、どのような防衛力(装備品や部隊)を整備すべきなのかという最前線の議論が目の前で行われていることであり、また、自分がその業務に携わることにより議論の一端を垣間見ることができることです。担当としてどうしたいのか、案件をどう進めるべきなのか、といったことをこれまで以上に考える必要があり、主体性を学んでいると感じます。



M E S S A G E

志望者へのメッセージ

性別や年齢にとらわれずに、新しいことにチャレンジできる環境です。防衛省・自衛隊には幅広い様々な業務があり、学ぶことも多く、視野が広がるとともに、常にフレッシュな気持ちで取り組むことができます。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

国内外での自衛隊の運用、
米軍との連携を考える

同盟国・同志国との運用
協力を深化させていく

大学時代に国際法ゼミで、安全保障分野の国際法の知見を深めたのが入省のきっかけでした。
運用政策課は、国内外での自衛隊の運用について、主に法制度面から政策の企画立案を行っている部署です。中でも私の所属する班は、「日米同盟のもと、自衛隊と米軍が有事や災害を含む緊急事態にどのように連携して対応すべきか」といった枠組の検討を日々行っています。また昨今では同志国との運用協力も拡大しており、特に豪州とは、いわゆるアセット防護や警戒監視活動を通して協力関係を深化させています。業務の性質上、他国とのやりとりも多いため、調整の際や通訳業務で英語を使う機会が多いです。



防衛政策局運用政策課
係長
2013年入省

04 自衛隊の運用

他国との折衝から最適解を見つける面白さ

自衛隊の運用という防衛省ならではの業務に関与できることが運用政策課の魅力であると感じています。限られた時間・資源の中で軍事の専門家たる各幕僚監部と連携し、事務官として主に政策・法的見地から助言しつつ、時には専門職として他国と折衝を行い、最適解を見つけていく過程は苦労もありますが刺激的でやりがいを感じます。
また、所属してきた各部署での経験を後の業務に活かすことができるのも魅力のひとつです。例えば、過去に外務省出向時に得た日米地位協定に関する知見が、自衛隊の運用において米軍基地の使用を検討するという現在の業務に非常に役立っており、積み重ねてきたことが自分の成長につながっていると実感しています。



M E S S A G E

志望者へのメッセージ

我が国を取り巻く安全保障環境を踏まえると、これまで以上に同盟国や同志国との連携を強化することが重要であり、一行政官として国際的な業務に従事することが期待されている防衛省専門職の活躍の場は拡大し続けています。語学力を武器に、日本の平和に貢献したいという方、ぜひ入省をお待ちしています!

05 宇宙・サイバー・電磁波

サイバー攻撃に対して、
迅速かつ的確に対応するために尽力

諸外国との連携を通じて、
サイバーに関する知識を向上

大学卒業後は民間のIT企業で勤務していましたが、サイバーセキュリティへの世界的な関心がますます高まる中で、社会貢献できるような大規模な仕事に従事したいと思うようになり、我が国の安全保障を担う防衛省を志望しました。

安全保障上の重大な課題であるサイバー攻撃に対して、迅速かつ的確に対応するためには、我が国自身の体制強化のみならず、米国をはじめとする諸外国と連携していくことが必要です。こうした認識のもと、これまで防衛省・自衛隊は諸外国との間でサイバーに関する協議、訓練や演習を実施してきましたが、私は専門職として、諸外国とのサイバー関連事業の計画や調整などに従事しています。



整備計画局
サイバー整備課
係長
2014年入省

終わりのないセキュリティ対策に、進化で応える

サイバーセキュリティ対策には終わりがなくとよく言われます。なぜなら私たちの社会を支える情報通信技術は日々進化し続けており、サイバー攻撃者はそういった新たな技術の隙を狙い、私たちの平和な生活を脅かしているからです。そういった点で、最新の情報で自身をアップデートし続けることがサイバーに関する業務の大変さである一方で、サイバーに関する各国の施策や世界の動向などについて、諸外国との意見交換を通じて各国の知見も学びながら、防衛省・自衛隊の進化に活かしていくことがサイバー整備課での業務の魅力のひとつです。



M E S S A G E

志望者へのメッセージ

民間企業だからできること・できないこと、また同様に政府だからできること・できないこと、それぞれたくさんありますが、防衛省・自衛隊でできる経験は、ここでしか経験できません。平和な社会の礎は国防にあり、安定した安全保障環境の実現は決して一人の力では成し得ません。ぜひ我々と共に、日本と世界の平和を守っていきましょう。

世界各国の軍事情勢における
情報収集・分析を実施

東南アジアなどの
軍事情勢を日々ウォッチ

入省のきっかけは、東京にある外国公館でアルバイト勤務をしていた際に、防衛省と関わることが多かったため、防衛に関する仕事に興味を感じたことです。また、防衛省では他国との交流・調整業務が増えており、学生時代に身につけた語学能力を活かせると思いました。

私が現在所属している調査課戦略情報分析室は、世界各国の軍事情勢について情報収集・分析を行う部署です。政策立案を行う政策部局に対して、意思決定や判断を支援するための情報提供を行っています。その中でも私は、米国、東南アジア、オセアニア、南シナ海における軍事情勢を日々ウォッチしながら、情勢分析資料の作成や防衛白書の執筆を行っています。



防衛政策局調査課
戦略情報分析室
主任
2018年入省

06 インテリジェンス

自分で作成した資料が評価される喜び

膨大な情報が氾濫し偽情報が蔓延する現代社会において、必要かつ正確な情報を収集することには困難が伴います。その中で、今まで培った語学力を活用しながら、日々の情報収集活動を通じて信頼できる情報を選別・収集し、時には複雑な情報要求元のニーズを満たす適切な資料を試行錯誤しながら作成すること、そしてその成果が評価された時にはとてもやりがいを感じます。



M E S S A G E

志望者へのメッセージ

「英語ができて当たり前」の社会になりつつあるとは言え、英語を用いて自分の言いたいことを適切に表現し、相手の発言内容を正確に捉えることができる語学力は貴重であり重宝されます。防衛省では、ほぼ全ての部署で英語を必要とする業務が行われており、専門職の活躍できる場も多様化しています。皆さんの類まれなる能力を存分に発揮できる場は防衛省であると断言できます。

07 在日米軍と地方自治体

日米共同訓練などの実現に向けた調整に従事

語学力を活かして、視野を広げられる仕事

学生時代から英語を活かした仕事に携わりたいと思っていたところ、大学の教授に防衛省を勧められたことが入省のきっかけです。自分の語学力を活かしつつ、様々な専門分野の方々とともに仕事をして視野を広めたいと思いました。

現在の仕事は、主として日米共同訓練などを計画通りに実施できるようにするための日米合意の締結や、より実践的・効果的な訓練などを実施するための方策について米軍と交渉することです。皆さんがメディアで目にするのは実際の訓練の様子だと思いますが、私が携わっている業務は、そういった訓練の実現に向けた調整と一言で言えば、イメージが湧きやすいと思います。



地方協力局
東日本協力課 部員
2009年入省

今までの経験と分析力で交渉に臨む

相手のある仕事に共通して言えることかもしれませんが、双方が納得のできる結果を導き出せるような交渉をするのが、一番苦労しつつも、やりがいを感じる点です。こちらの主張を前面に押し出してばかりいるのではなく、難しい交渉ほど、まずは相手の主張を相手の立場になって理解することが重要だと、これまでの経験から実感しています。そのため、日々あらゆるものの考え方を積極的に吸収し、多角的かつバランスの取れた分析力で交渉に臨むことのできる人間を目指しています。



M E S S A G E

志望者へのメッセージ

「防衛」や「安全保障」という言葉に高いハードルを感じる方もいるかもしれませんが、防衛省で行う仕事は多岐にわたり、その全てが我が国の防衛や安全保障につながるものです。また防衛省では、キャリアパスを通じて様々な分野の業務に携わることで、自分の得意分野を見つけながら成長していくことができます。皆さんと一緒に仕事ができる日を待っています！

08 防衛装備・技術協力

3か国で共同開発する「次期戦闘機」に関わる醍醐味

大規模な国際プロジェクトに尽力

英語を使う仕事、安全保障に関する仕事、人の役に立てる仕事が理想だったので、全てが叶えられそうな防衛省専門職を志望しました。海外の大学院に留学できる制度があるのも魅力的でした。

現在は、日本、英国、イタリアで共同開発中の「次期戦闘機」に関する仕事をしています。「F-2」という戦闘機が2035年頃から引退し始めるため、それまでに優れた「次期戦闘機」を3か国で協力しながら作り上げるという大きな国際プロジェクトです。2023年12月に東京で日英伊防衛相会合を開催した際も、英伊側を含む省内外の調整に奔走しました。



防衛装備庁
プロジェクト管理部
事業監理官(航空機担当)付
係長
2012年入省

防衛行政に関する知見を深めていきたい

たくさんの人々の「当たり前な生活」を守る仕事であることや、自分の仕事が感謝されたりテレビや新聞で取り上げられたりすることなど、やりがいを感じる瞬間は多いですが、私にとって一番モチベーションになっているのは、仕事内容が奥深く面白くという点です。もともと安全保障に関心があったこともあり、どのようにして政策が決まったり、施策が実行に移されたりしているのか、業務を通じて防衛行政に関する知見が深められるところに魅力を感じています。



M E S S A G E

志望者へのメッセージ

就活の面接は相性診断のようなものだと思います。様々な面で相性が良い職場とマッチして就職することが結果的にWin-Winをもたらすと思うので、自分らしさをなるべく正確に伝えることができると良いのではないかと思います。たくさん物事に触れてみて、自分の素直な感想を大切に、その結果として防衛省にも興味を持ってもらえたら嬉しいです。

09 広報

防衛省と報道機関を橋渡しする 重要な役割を担う

同盟国・同志国との
連携強化に関わる業務に
携わりたい

大学で国際政治学・安全保障論を勉強する中で、同盟国や同志国との連携強化の重要性を感じ、自分もそこに携わりたいと考えたのが志望動機です。他国とのやりとりに直接関与できる機会が多いことを魅力的に感じ、専門職の受験を決めました。

現在、私が所属する広報課報道室は、防衛省と報道機関を橋渡しする重要な役割を担っています。防衛大臣会見のアレンジや、他国との会談などにおける取材機会の調整、報道機関から日々寄せられる各種問い合わせへの対応が主な仕事です。国外で防衛相会談が行われる際は、大臣に同行して業務にあたります。報道室に配属後、これまで米国やシンガポールへの出張に同行しました。



大臣官房広報課
報道室
係長
2017年入省

政策に関与しているという実感が魅力

防衛省と報道機関との窓口を担っている関係上、24時間365日、いつでも対応できる態勢を維持する必要があるため、土日や勤務時間外も気を抜けない大変さがあります。他方で、防衛省が報道機関に発信する情報は広報課報道室を経由するため、今まさに自分が対応していた案件が次の瞬間ニュースで取り上げられることもしばしば。そこで、政策に関与しているという実感を得られるのは大きな魅力です。また、多岐にわたる防衛省の業務を一望でき、これまで個人的に関わりが少なかった部署の仕事内容も含めて、防衛政策について幅広く勉強することができます。



M E S S A G E

志望者へのメッセージ

防衛省ではどのような仕事を任されるのか、入省前に具体的なイメージを持つのは難しいですし、だからこそ自分に全うできるか不安に思う方も多いと思います。しかし、防衛省での仕事は、いずれも「我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つ」という目的に適う、やりがいのあるものです。また、どの仕事もチームで行います。防衛省を志望する皆さんには、安心してチャレンジしてほしいと思っています。

10 高官通訳

日米調整を行いながら、 高官の会談・表敬の通訳に従事

専門的な内容に関わる
通訳は日々勉強

今まで培ってきた語学力を活かし、国防という国家の根幹に携わる仕事がしたいと考えたのが入省のきっかけです。入省後に配属された部署の上司が高官通訳を行う姿に憧れ、自分でも「やってみたい」という想いから研修を経て、高官通訳の業務に就きました。

現在は防衛装備庁において米国との装備・技術協力を担当しており、米国防省や各軍との調整を行っています。その傍ら、装備庁長官やその他防衛省高官の会談・表敬の通訳を行っています。英語ができるからといって自動的に通訳ができるわけではありません。一口に防衛と言っても、分野は多岐にわたり、専門的な内容も多いため、入省から10年以上経ってもなお日々勉強だと感じています。



防衛装備庁
装備政策部 国際装備課
係長
2013年入省

重要な会談で最前線に関わっている実感

高官通訳は、訳し間違いや訳し漏れといったミスが致命的になる責任の重い業務です。語学力の研鑽はもちろん、防衛行政への深い理解が必要であり、アンテナを高く張って努力し続けなくてはなりません。かなりプレッシャーがかかりますが、防衛大臣や装備庁長官などの会談においては、まさに最前線に関わっている実感があり、大きな達成感を得られることが魅力です。通訳者はあくまで円滑な意思疎通を支える裏方であり、まるで自分がいないかのように話が弾み、話者同士が互いのことを深く理解できたのを目にする時に最もやりがいを感じます。



M E S S A G E

志望者へのメッセージ

我が国の防衛の大きな柱である日米安全保障体制は、装備・技術分野を含めてあらゆる広がりを見せており、米国以外の諸外国との協力・交流もどんどん裾野が広がっているので、防衛省には通訳に限らず専門職として様々な経験を積める環境があります。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

若手職員に聞くQ&A

Q 防衛省を志望した理由、入省の決め手は何ですか？



大学でモンゴル国とその周辺国との地政学的課題について調査したことや、自衛官の知人から話を聞いたことがきっかけで、日本を取り巻く環境はどうなっているのか知りたいと思うようになりました。好きな「英語」を活かしながら防衛行政に携わることができる防衛省専門職は、自分にぴったりだと思い志望しました。



小さい頃から日本の歴史や文化が好きで、大学卒業後はポーランドで日本語教師をしていました。日本の歴史を作ってきた偉人たちに憧れを感じていたことから、帰国後は「私も教科書に載るような歴史的な場面に携わりたい!」という想いがあり、国家公務員を志望しました。また、英語が好きなので、英語力を磨ける環境、しかも防衛関係の英語という専門的で、自分の強みを作ることができる環境に魅力を感じました。



海外で生活した経験や大学で英語を専攻したことで、言語を通して外国の文化や価値観に触れる楽しさを学び、好きな英語を使って仕事がしたいと思っていました。中でも、「防衛」という国の根幹に語学力を持って貢献することができる点に魅力を感じ、防衛省専門職を志望しました。

Q 防衛省職員としてどのような目標を持って成長していきたいですか？



安全保障分野における通訳や翻訳の専門性を身につけることは専門職として欠かせないことだと思いますが、大前提として、「行政官」としていかに望ましい安全保障環境の創出に寄与できるかを模索していきたいです。また、部署を異動する際には、同僚から「もっと一緒に仕事がしたかった」と思ってもらえるように、できることに精一杯取り組み、周囲の人から信頼される防衛省職員になりたいです。



2つの軸で成長していきたいです。1つめは、人間性です。特に、自身が担当する案件を人任せにしない責任感がある人、また間違いを素直に認められる誠実な人になるべく、日々の業務に臨みたいと思っています。2つめは、語学力です。相手に日本側の意見を丁寧に分かりやすく伝えられるような語学力や調整力を身につけるべく、成長したいと考えています。



自分の業務をより的確に、効率的にこなすことに加え、特に若手のうちは積極的にいろいろな経験をするように心がけたいと思います。また、多様な経験を積むことで自分の得意不得意や興味のある分野とは何なのかを考えていきたいです。さらに専門職として、英語力、通訳・翻訳能力をさらに向上させたいと思います。

Q 防衛省に入省して良かったこと、防衛省職員として誇りに思うことは何ですか？



安全保障の一翼を担っていることを実感できることです。現在の部署では、日米共同訓練の実現に向けた手続きを担当しています。米国側との調整を終え、無事に共同訓練を実現でき、その成果をメディアでの報道を通して目にした際には、自身も日本や地域の安全に寄与していることを肌で感じます。



防衛省の仕事は幅広く、それぞれの課で全く異なる業務を行っていますが、どの課であっても安全保障に関する業務に携われるということに誇りを感じます。また現在、在日米軍と月1回開催している会議の調整を担当しています。会議では、毎回直前になっても具体的な内容が決まらないことや、急な変更が生じることも多いですが、この先何年も記録として残る会議に携わっていると思うと、とてもやりがいを感じます。



安全保障に直結する業務に携わり、日本及び国際社会の平和に貢献していると感じられることです。1年目には自衛隊の運用に携わる統合幕僚監部に所属していましたが、ウクライナ支援など国際平和に直接的に関わる仕事に携われたことを誇らしく思いました。現在は防衛政策課という防衛政策の司令塔の役割を果たす課に所属していますが、日米韓の防衛協力など、日本の安全保障上、非常に重要な業務に携わることができることを誇りに感じています。



防衛政策局運用調整参事官付
係員
2023年入省



地方協力局東日本協力課
係員
2023年入省



統合幕僚監部首席参事官付
係員
2023年入省



地方協力局在日米軍協力課
係員
2022年入省



防衛政策局防衛政策課
係員
2022年入省



防衛装備庁プロジェクト管理部
事業監理官(航空機担当)付
係員
2022年入省



Q 入省後に感じたやりがいを教えてください。



米軍基地の現地調査に通訳として参加した経験が強く記憶に残っています。ここでは日本側の通訳を担当し、米国側の現地部隊の方から「助かったよ」と声をかけていただき、やりがいを感じるとともに、自身の存在意義も感じました。また、職場に若手の力を信じ、そのような機会を与えてくれる上司がいることも魅力のひとつです。



国防の最前線がどのように機能しているのかが分かるというのが最大の面白さだと思います。例えば、1年目にも関わらず、在外邦人等輸送の関係で海外で勤務する経験をさせていただき、実任務の現場を肌で感じる事ができたとともに、調整業務の他、通訳業務にも挑戦させていただき、専門職として貢献できたことにやりがいを感じました。



現在の課では通訳業務に携わることが多いのですが、日本政府としての立場を理解しつつ、相手にその立場を正確に伝えることが求められるため、責任感を持って業務にあたっています。また担当者級の会議では、専門性が非常に高いため、常に新しい知識を吸収する必要があり、自分の視野が広がっていくと感じられる点にやりがいを感じています。

Q 現在の所属と1日の仕事の流れを教えてください。



自衛隊の訓練等の各種活動に責任を持つ部署で総括業務を行っています。訓練の準備状況や部隊の活動状況により1日の流れは大きく異なりますが、課全体の状況・案件を俯瞰できるのは、課長と総括担当者数名です。先輩職員と相談・協力し、他省庁や陸海空自衛隊から届く案件が、自衛隊としてあるべき方向に向かうように業務の道筋を描くのが仕事です。



現在は、在日米軍協力課に所属しており、在日米軍関連の調整業務を担当しています。出勤後は、他課や米軍から届く依頼等のメールを確認した後、各案件について班員と適切に検討・処置をしています。



日英伊3か国の次期戦闘機の共同開発を行う部署に所属しており、特に語学業務(通訳・翻訳、外国との調整、会議対応など)を担当しています。毎日、外国のカウンターパートからのメールをチェックし、会議に向けた調整や資料翻訳等を行っています。毎週、外国とのテレビ会議の通訳があるため、資料を読み込むなど事前準備をして臨んでいます。

Q 入省後にギャップを感じることはありましたか？



1年目の職員の要望や意見にもしっかりと耳を傾けてくれる環境であると感じています。省庁であるためトップダウン型の文化が強いですが、若手のニーズや考えを汲み取ってくれる雰囲気があります。上司に相談し、新しい業務に挑戦させていただくこともありました。



多様なバックグラウンドを持つ事務官・自衛官が活躍していることです。また、職場が明るく、垣根なく、皆で楽しく仕事をしており、堅いイメージとは違っていました。これまでに数回、海外出張をして通訳をする機会がありましたが、若手が活躍できる環境が整っていることに驚きました。

Q 休日はどのように過ごしていますか？



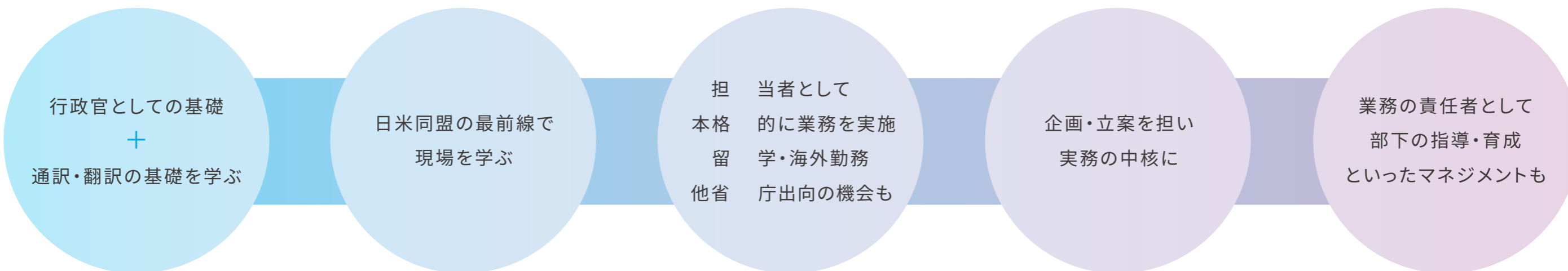
休日は映画鑑賞、友人や入省同期との食事、最寄りの市民体育館で運動などをして、気分転換をしています。また、今年は学生時代の友人を誘い、人生初めての登山(富士山に登りました)にトライするなど新たなことにも挑戦しています。小さな積み重ねが大切なため、英語学習をすることも心がけています。



平日の勤務中はデスクワークが基本になるので、休日は、できるだけ人に会ったり、運動をするようにして、体を動かすことを心がけています。最近では、YouTubeでヨガの動画を見ながら運動をしています。

様々な業務を経験しながらステップアップ

入省1～2年目は東京都市ヶ谷にある本省内部部局において、1年に1ポスト、合計2ポストを経験します。
 3年目は現場を知るために在日米軍が所在する地方防衛局で勤務します。
 4年目以降は、本省内部部局をベースに、概ね2～3年ごとに異動し、キャリアを重ねていきます。



多彩な研修制度で、一人ひとりをバックアップ

入省後は、様々な職種の職員とともに防衛省職員が身に付けておくべき知識やスキルについて学ぶ統一研修を受講するほか、キャリアアップに必要な研修が用意されています。
 また、専門職ならではの研修として、通訳業務に従事する職員の技能向上のための英語通訳研修があります。
 初級から上級まで、職員のレベルに応じて都内の通訳学校で研修を受けます。

海外での活躍

日本での勤務が基本となりますが、海外出張、海外留学、海外勤務などで海外で活躍する機会があります。

海外留学

- 期間：1～2年
- 留学先：英国、米国、豪州等
- 研究内容：国際政治、安全保障、公共政策、戦略論等

海外勤務

- 期間：2～3年
- 勤務先：外務省の在外公館、豪国防省、米国ミサイル防衛事務所、海外シンクタンク等

海外研修

職員の体験談

整備計画局施設技術管理官付防護施設研究室 係長(2013年入省)

米国のシンクタンクにおいて、約2週間の研修に参加しました。研修では、米国政府に政策提言を行ってきた著名な専門家による講義を通じ、最新の世界情勢や米国の考えを知ることができ大変有意義でした。特に、日米間のハイレベルな会議に携わった専門家の講義において、直接、意見交換することができたことは、とてもよい刺激になりました。滞在中、週末には博物館の鑑賞など、ワシントンD.C.の文化を味わい教養を深めることもできました。



研修で訪れた国立海兵隊博物館にて

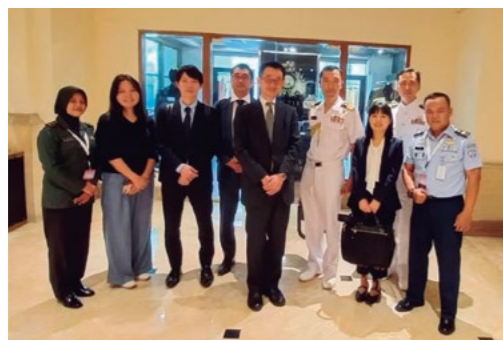
職員紹介

様々な部署を経験し培った知識で、
集大成としての業務に挑む

26年目



大臣官房秘書課
部員
(防衛審議官秘書官)
1999年入省



国際協力において、
相手と心を通い合わせる瞬間が
大きな喜び

23年目



防衛装備庁プロジェクト管理部
事業監理官(航空機担当)付
事業監理官補佐
2002年入省



1999年
入省

1999年

情報本部分析部(兼緊急動態部)
当時創立3年目の情報組織で防衛省人生が始まり、情報収集・分析の基礎と心得を身につけながら、情報分析資料の作成、ロシア語資料の翻訳や通訳に動んでいました。入省の前年までソ連崩壊後の混乱期のモスクワで2年間勤務していたこともあり、専攻語学と自身の経験や知識を活用して国の活動に貢献できる職務にめぐり会えたのは幸運でした。

2006年

防衛局国際企画課(現:防衛政策局国際政策課)
ロシアをはじめ、旧ソ連諸国、中東欧、北欧、中東諸国の防衛交流を担当し、国内外での防衛当局間の協議、防衛大臣や高官の会談に関する調整、各自衛隊の防衛交流案件のとりまとめが主な任務でした。高官のロシア語通訳の登板の機会も多く、冷や汗のち反省のたびに、語学の研鑽と安全保障・軍事の広い知識の必要性を痛感していました。

2012年

外務省出向(在インドネシア日本国大使館政務部)
インドネシアの経済と国際影響力がぐんと伸び、東南アジアで南シナ海をめぐる議論が白熱し、両国の防衛交流・協力件数が急増し、幸いにも(?)仕事の多い時期でした。意外な赴任先でしたが、恵まれた勤務環境で居心地もよく、国軍・国防省、政府機関、各国武官たちと楽しく戦いながら活動したのは貴重な経験です。

2021年

防衛装備庁装備政策部国際装備課
諸外国との装備協力・交流、防衛装備品移転の政策を担う要の部署で、南アジア、中東、アフリカ、中南米諸国との防衛装備協力の総括を受け持っています。国内外の往来や対面での会議が容易ではない時期ではありましたが、装備庁内の技術部門とも協力し、企業、大使館の武官や国防省と様々なツールを活用してやりとりをしていました。

2003年

防衛局調査課情報室(現:防衛政策局調査課戦略情報分析室)
確度の高い国際・地域情勢分析と情報が必要とする人への正確な説明が課題の部署です。在籍中に米国防務局で数ヶ月間研修する機会を得て、経(軍)歴、世代の異なる17か国の軍人・文官とともに分析官として習得すべき情報分析の基礎全般の訓練を受けました。その時学んだことは、情報業務のみならず後の業務にも役立っています。

2010年

近畿中部防衛局管理部施設管理課
管内の自衛隊施設の管理業務が任務でした。入省後、国際関係の部署での勤務が続いていましたが、初めて地方防衛行政に携わり、自衛隊の活動を支える基本ともいえる施設の適切な維持・管理の大切さを実感しました。財務局や自治体との複雑な手続きや地元住民への説明を経て案件が完結した時の達成感を今でもよく覚えています。

2017年

防衛政策局日米防衛協力課
対米関係を専門的に扱う業務は初めての経験で、政策調整から専門領域、関係強化と課題への対処、日米間の防衛協力関係の幅広さと奥深さをしみじみ実感した部署です。主に日米軍関係経費と在沖海兵隊のグアム移転業務を担当し、関係省庁との連携、国会対応や省外での説明の機会を通じ、行政事務能力向上に努めました。

2022年

大臣官房秘書課(防衛審議官秘書官)
現在の防衛審議官室での職務は、これまで担当してきた国際関係業務の集大成、応用編ともいえます。過去の勤務で積み上げてきた知識・経験、ネットワークなどの「便利引き出し」を利用して、防衛省の国際案件、対外関係を統括されている防衛審議官を全方位から補佐しています。秘書室内の和やかな雰囲気を保つことも大事なお仕事です。

印象に残るエピソードは?

国内外で様々な人と会議や研修で出会い、「もう会えないね」と感動的な別れをしても、長年の歳月を経て意外な場所で再会することがあります。ジャカルタ在勤時に駐在武官団の会計係をやっていたのですが、会費徴収のために団員リストをチェックしていたのですが、会費徴収のために団員リストを発見した時には、びっくり仰天しました。

この仕事のやりがい・魅力は?

国の安全保障・防衛を担う組織に身を置き諸外国の国防当局を相手にする仕事は、日々激しく変化する世界の流れに自分自身も関わっているというダイナミックで魅力的な面がある一方、時には意見相違の渦や利害の対立に巻き込まれて辛い板挟みに遭うこともあります。語学という自分の持ち札が仕事に直結して、国の政策や事業を進めていく上での貢献の一部になった時は心が弾みますし、先々の課題に取り組むモチベーションにもなります。

2002年
入省

2002年

航空自衛隊南西航空混成団司令部渉外班
私の防衛省・自衛隊生活のスタート地点です(当時はまだ「防衛庁」でした)。最初の赴任地が沖縄だと聞いた時は、それまでに沖縄に行ったことが一度もなかったのが不安でしたが、沖縄に所在する米四軍(米陸軍、米海軍、米空軍、米海兵隊)と航空自衛隊との間の各種連絡調整のために駆け回った3年間でした。

2008年

大臣官房秘書課国際室
このポストでは大臣や次官といった省高官の通訳をさせていただきました。このレベルでは、やりとりの内容がより大局的であったり、時事的なものであるなど、事前勉強もより入念にしておく必要がありました。議論の内容が難しいほど、同時に達成感も得られていた気がします。

2014年

防衛政策局国際政策課
豪州との防衛協力の担当として、豪州を頻りに訪れて調整や協議をしました。当時は日本と豪州との間で潜水艦協力の話があり、各種協議を進めていたのですが、最終的にこれが実現しなかったことは大変残念でした。ただ、このようになりとるを通じて、多くの豪州の人と心を通い合わせる事ができたことは、今でも私の財産です。

2020年

宇宙航空研究開発機構(JAXA)(出向)
予想していなかった出向で、JAXAの御茶ノ水オフィスで勤務することになりました。これまで防衛省・自衛隊の組織文化にしか触れてこなかった私にとって、異なる組織文化の中に自らを置くこと、また防衛省・自衛隊を異なった視点から見るという経験は、いろんなことを考えさせられるよいきっかけになったと思います。

2005年

航空幕僚監部総務部渉外班
沖縄から東京の市ヶ谷に異動になり、ここから長い市ヶ谷生活が始まります。このポストでは、専ら航空幕僚長などの通訳をさせていただきました。通訳するのは今でもドキドキするのですが、他国の軍高官とやりとりし先立ち、まわりのスタッフの方から中身をいろいろと勉強させていただきました。日々の職務も厳しかったですが、上司や周囲の皆さんにたくさん助けられました。

2011年

防衛政策局日米防衛協力課
在日米軍の再編とオスプレイの沖縄配備の担当として、在日米軍司令部や米海兵隊との調整や交渉に携わりました。難しい交渉の場面も多々ありましたが、粘り強く相手と真摯に向き合う重要性など、多くを学んだ時期でした。日々の職務も厳しかったですが、上司や周囲の皆さんにたくさん助けられました。

2017年

防衛政策局戦略企画課(現:戦略企画参事官)
この部署では、新領域として重視されている宇宙とサイバーの分野での国際協力を担当しました。私にとっても宇宙とサイバーは初めての分野だったので、まさに一から勉強の日々でした。いずれも「理系」な分野なので、ド「文系」な私は、それまであまり使っていなかった脳の部位が活性化した気がします。

2022年

防衛装備庁プロジェクト管理部事業監理官(航空機担当)付
直前の2ポストで宇宙を担当したので、今度も何らか宇宙とサイバーの分野に携わるのかなと思っていたら一転、初めての防衛装備庁勤務で、次期戦闘機の日英伊共同開発(GCAP)の国際協力を担当することに。GCAPでは前例のない新しいものを作り出すことが多く、日々目まぐるしく働いていますが、英伊とも本音をぶつけあえるパートナーとして共に前に進んでいきます。

この仕事のやりがい・魅力は?

自らのこれまでのキャリアパスをふり返ってみると、新しいポストにつくたびに新たに勉強すること・学ぶことが多くあり、それについていくことには大変な努力を要するものの、そのような積み重ねの中で、自らの知識を蓄え、知見を広げ、その都度新たな景色を見出し、この仕事の魅力・やりがいなのではないかと思えます。また国際協力においては、相手と心を通い合わせる瞬間が、何ものにも代えがたいと思えます。

今後の目標・抱負は?

通訳や協議を終えた後、関係者によく頑張ったね、ありがとう、などと声をかけてもらえる時は、本当に頑張った甲斐があったなと報われます。国際協力を通じてより良い国際環境を創出するための一助となるべく、今後とも、これを進展させるための努力を惜しむことなく、誠心誠意取り組んでいきたいと思えます。

職員紹介

自らのアイデアで企画・調整ができる醍醐味

高官の通訳を行う機会も

12年目



防衛政策局
インド太平洋地域参事官付
係長
2013年入省



各国協力の開拓に従事

大きなやりがいに満ちた日々

8年目



防衛政策局国際政策課
係長
2017年入省



2013年
入省

2013年

防衛政策局国際政策課

入省1年目は、米国以外の国との防衛協力・交流を扱う国際政策課に配属されました。防衛分野における二国間・多国間の協力を政策面から後押しする部署です。能力構築支援事業や多国間会議の準備を担当し、本番では海外からのゲストのご案内や通訳をしていました。英語のアウトプットに四苦八苦しつつも、諸外国の方たちと交流できたのは新鮮な経験でした。

2015年

中国四国防衛局企画部地方調整課

初めての国内赴任は、広島城の隣りに拠点を置く中国四国防衛局でした。前年に携わっていた空母艦載機の移駐案件や米海兵隊のF-35Bの配備計画の他、コンサートやサッカー等の日米交流事業を担当していました。日々調整や協議を通して、周辺自治体や在日米軍の方々と信頼関係を築きながら業務を進めるやりがいを実感。また、通訳機会も増え、自分の技量不足を痛感しながらも、心が鍛えられた日々でした。

2019年

米国留学

ワシントンDCの大学院で戦略論を専攻しました。「ends-ways-means」という戦略モデルを学んだり、日本の防衛・安保政策に対する国外からの視点に触れたり。留学の経験がきっかけで、帰国後は「国家防衛戦略」を踏まえながら、より俯瞰的・多角的な視点で自分の業務を見ることができ、モチベーションアップにもつながりました。

2022年

防衛政策局
インド太平洋地域参事官付

国際政策課と同じく、米国以外の防衛協力・交流を所掌する部署へ。入省1年目の頃とは異なり、中東・アフリカ・南アジアという担当国を持つことになりました。省内や相手国の声を踏まえながら、自らのアイデアで企画・調整ができる面白みが増えるとともに、大臣などの高官の通訳を行う機会も増えました。

2014年

地方協力局地方調整課
(現:地域社会協力総括課)

在日米軍の再編計画のうち、空母艦載機の厚木から岩国への移駐などを担当する班において、在日米軍との日々の調整や協議準備を語学面からサポートしました。相手方との信頼関係を築きながら、しなやかに交渉・調整をする上司や先輩方の背中を追いながら、発見や学びを得ていた日々です。

2017年

防衛政策局調査課

相手国との間で協力を進めるにあたっては、お互いに交換した情報を適切に保護することが不可欠ですが、それを制度面から確保する部署にいました。専門知識を駆使しながら相手国と調整・交渉。タフでありつつも、そこで得た知見がその後の配属先でも役に立つことが多々あり、振り返ってみると貴重な経験ができた日々でした。

2020年

防衛政策局日米防衛協力課

同盟国である米国との防衛協力を所掌する部署に配属されました。どんな状況においても、米国との間で途切れない緊密な調整ができるように、日頃からカウンターパートの在日米軍司令部の担当と電話・対面で調整をしたり、有事を想定した訓練に参加したりしていました。日米同盟の最前線で調整をできるのは、このポストならではの醍醐味です。

この仕事のやりがい・魅力は?

専門職の仕事の魅力のひとつは、語学というツールを駆使して、調整・企画・立案を進められることにあると思います。例えば、相手国や省内関係部署との日頃のやり取りがきっかけで、「相手国と当省の協力ニーズがマッチしているので、こういうプロジェクトをやると有益では」という気づきにつながり、上司や関係部署の協力を得ながら最終的に形になった時は、やりがいと達成感を感じます。

印象に残っている出来事は?

高官の国外出張に通訳として同行し、自衛隊戦没者の慰霊碑を参拝する機会があったのですが、その際に、当省と相手国の高官が涙ながら「心と心の対話」をしている場面に通訳者として立ち会えたことが心に残っています。個人レベルの信頼関係の積み重ねが国レベルの友好関係に繋がることを改めて実感しました。

2017年
入省

2017年

整備計画局防衛計画課

防衛計画課は防衛力整備計画を策定するとともに、その計画に基づき、必要な装備品の策定や予算の取得などを行います。総括班員として国会対応等に従事する傍ら、航空機の取得に向け外国政府との調整にも参画させていただきました。右も左も分からない中、上司・先輩たちに一步一步導いてもらいながらの毎日でした。

2018年

地方協力局沖縄調整官付(現:沖縄協力課)

米軍基地が集中する沖縄の負担軽減や、地元の理解・協力の促進に向けた業務を行う部署です。沖縄に所在する米軍基地の管理や米軍の運用について、横田基地の在日米軍司令部との調整や日米合同委員会での通訳など、専門職としての仕事の中身や技能などについて、多くを学ばせてもらえる部署でした。

2019年

沖縄防衛局企画部地方調整課連絡調整室(現:連絡調整課)

平素からの在沖米軍との各種調整に加え、米軍の活動中に事案・事故が発生した際の初動対応に当たります。特にコロナ禍においては、米軍と地元自治体の意思疎通のため、頻繁に通訳をさせていただきました。米軍関係者や地元自治体の方々と会い、米軍基地をこの目で見ることで、現地の実情を学べる絶好の機会でした。

2021年

防衛政策局国際政策課

個別の案件を自分で回さなければならない「担当」としての業務です。今は欧州の国々との防衛協力・交流の業務や、大臣をはじめ高官の通訳に従事しています。安全保障環境が厳しくなる中、各国との協力を開拓していく業務は重要度を増しています。忙しさと同時にやりがいに満ちている毎日です。

この仕事のやりがい・魅力は?

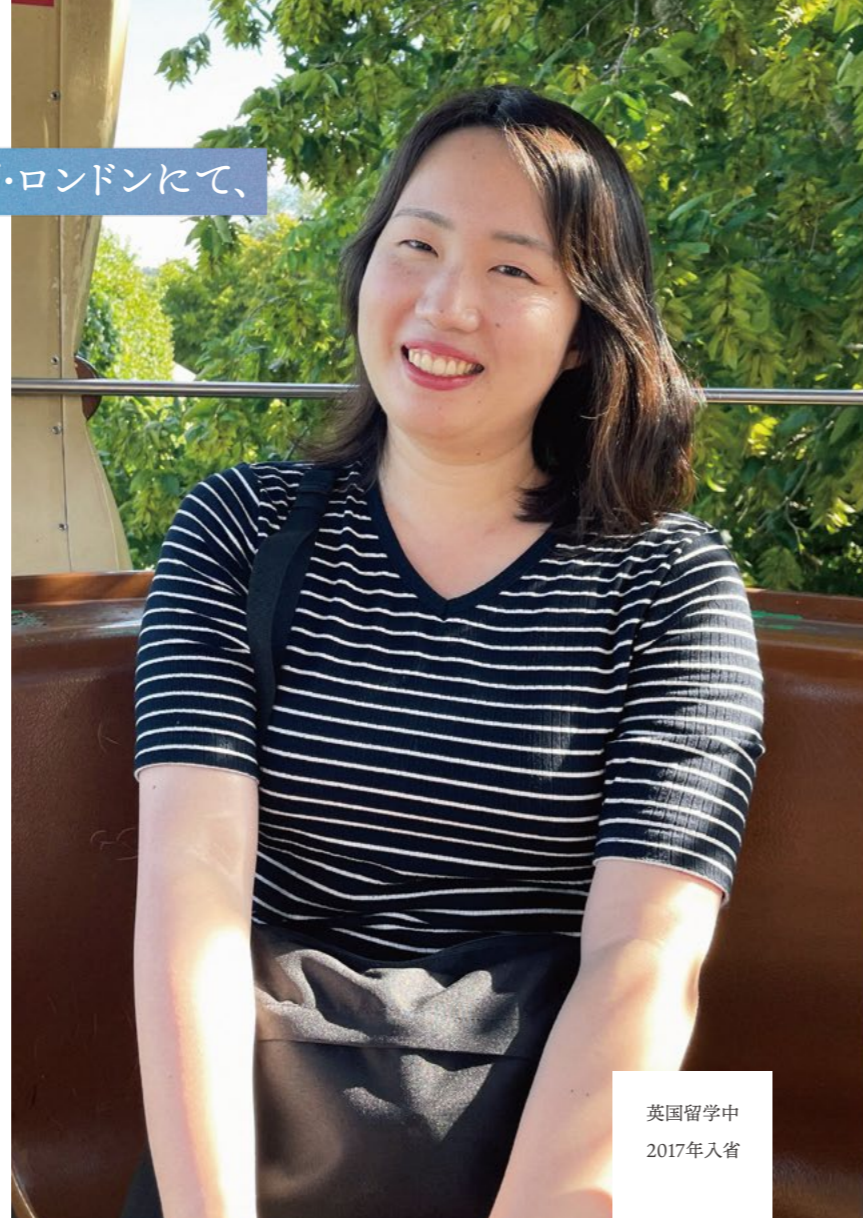
最大の魅力は何より、安全保障・防衛政策の策定・実行をこれほど間近に見ることができる職場は他にないことです。例えば国際政策課では、あなたの調整した行事がニュースで取り上げられたり、あなたの作成した資料が大臣の発言になったりします。通訳としてはあなたの言葉を通じて、防衛省・自衛隊、ひいては日本の立場が相手国に伝わります。大変な仕事ではありますが、一緒に働く人々はそれぞれ、特別な経験と知識を積んだ頼もしい人々です。そうした素晴らしい上司・先輩・同僚と協力しながら日本のためになる仕事ができるのはやりがいに満ちていますし、何より楽しいものです。

今後の目標・抱負は?

専門職には英語の技能が求められますが、防衛省の業務に寄与するためには語学以外の業務経験を積む必要があります。防衛省・自衛隊が果たすべき役割が増大中、語学にとどまらず、同僚・組織の役に立てるような技能や知識を兼ね備えた、多様な業務を回せる行政官になりたいと思います。

海外留学

英国キングス・カレッジ・ロンドンにて、
国際関係学を学ぶ



英国留学中
2017年入省

俯瞰的な視点で、
国際情勢を研究

大学時代に国際関係学を勉強して安全保障に関心をもちました。また、自分の強みである語学力を活かしたいと考えていました。参加した先輩職員との座談会イベントで、直接専門職の先輩から話を聞いたことでイメージが湧き、自分もここで働きたいと感じるようになりました。

現在、私は英国にあるキングス・カレッジ・ロンドンで国際関係学を学んでいます。より俯瞰的な視点で、国際情勢を研究する基本となる理論がテーマです。また、キングス・カレッジ・ロンドンでは、より実践的な視点から国際情勢を学べる授業があるなど、様々なクラスが用意されています。クラスでは、理論を交えながら実際に現代に起きている紛争などについて各視点から分析し、日々議論を交わしています。

授業以外で、他国の留学生と交流できるのも魅力

講義で扱うテーマの中には個人的に馴染みのないトピックもあります。自分なりに調べて考えた上でクラスメイトと議論することは、時間を要し、時に困難に感じることもありますが、自分の知識の広がりを感じることができます。

また、キングス・カレッジ・ロンドンの国際関係学修士課程では、学生の多くが留学生であることもあり、英国から見た世界情勢に加えて、他国から見た世界情勢を知ることができ刺激になっています。また、授業以外においても、似たような関心を持つ学生と交流できることは留学の魅力の一つだと感じています。



M E S S A G E

志望者へのメッセージ

防衛省専門職は、通訳や翻訳といった語学の業務にとどまらず、政策の企画立案など、幅広い業務に携わることができる職種です。そのため、各分野における知識を身につける大変さを感じることもありますが、日本の安全保障に貢献しているというやりがいを感じられます。具体的な業務のイメージが湧きづらいかもしれませんが、その際はぜひ採用イベントにも参加して下さいね！

海外勤務

派遣先の豪国防省において、
地域の海洋の安全と平和を維持



防衛政策局国際政策課日豪防衛協力推進室
(豪国防省勤務)
2010年入省

もっと豪州のことを
知りたいという想い

祖父が自衛官で地元陸上自衛隊の大きな駐屯地があったため、もともと防衛省・自衛隊には馴染みがありました。大学卒業後、しばらくして、自衛官志望で地方協力本部を訪ねたところ、年齢制限(当時26歳未満)があり、その一方で、防衛省専門職は受験可能だったため、経歴から専門職を志望してはどうかと担当官から勧められたのが、入省のきっかけでした。海外勤務に就いたのは、以前の所属先で何度か豪州へ出張する機会があり、豪国防省の職員と触れ合う中で、もっと豪州のことを知りたいと思ったためです。派遣先の豪国防省は、太平洋島嶼国や東ティモールに対し、巡視船の供与や乗組員の教育などを通じて、地域の海洋の安全と平和を保つ事業を長年実施しており、その部署の一員として、政策立案を担っています。

日本と豪州の相互理解を深め、視野を広げる

海外勤務の魅力として、外国政府がどのような手続きを経て政策決定をしているのか、どういった考えで優先順位をつけていくのか、仕事に何を求めているのかなど、勤務を通じて異なる文化を経験できる点があると考えています。また、異文化をただ浴びるばかりではなく、日本の考え方や豪州と異なる点などを伝えることで、相互理解を深めるとともに、視野を広げていけるところにやりがいを感じます。語学力の向上も魅力と言えるかもしれませんが、英語は永遠の課題です。

直近の目標は、太平洋島嶼国の歴史や文化、豪州との関係を理解することですが、豪国防省の職員に、もっと日本を知ってもらい、親しみを持ってもらうことも、この勤務を通じての目標だと考えています。その上で、この海外勤務で得たことを今後の防衛省勤務で還元していけるよう、毎日意欲的に過ごしていきたいです。

M E S S A G E

志望者へのメッセージ

今や、どの国も一国では自国の安全を守ることではできない中、日本にとって唯一の同盟国である米国以外の国との協力・連携・意思疎通も、今後ますます求められていきます。どの国にとっても重要な安全保障という分野でも働いてみませんか。

地方勤務

防衛省と在沖米軍の間で 連絡調整を担当

常にエキサイトしたい
人には最適な環境

防衛省・自衛隊の組織目標は、いつ何時も一貫して、ただひたすらに「国防」です。難しいことは苦手なので、この単純明快かつ豪快さに惹かれて防衛省の門戸をえいやと叩きました。防衛省での日々に1日たりとも同じ日はありません。常に自分をエキサイトさせ続けたい人にはぴったりの環境がここにはあります。現在は、防衛省と在沖米軍との連絡調整を行う部署に所属しており、中でも私の班は嘉手納飛行場に所属する在日米空軍の運用全般に関わる連絡調整業務を担当しています。定期的に米軍との会議に参加するほか、事案が発生した際は現場に駆けつけ、直接米軍との連絡調整にあたります。



沖縄防衛局企画部
連絡調整課
係員
2021年入省

現場調整の最前線で、「顔」が見える交渉

地方防衛局勤務の最大の魅力は、皆の「顔」がよく見える点です。在沖米軍の「顔」、地方自治体の「顔」、地元住民の方々の「顔」。市ヶ谷の防衛本省からは中々はっきりとは見えず、見えたとしてもその細かい表情まで読み取るのは至難の業です。本省に代わって現場調整の最前線に立ち、相手の意思と要望を汲み取り、それを本省に正確に伝える、これが地方防衛局に課された重要な役割のひとつだと思っています。非常にセンシティブな役どころではありますが、この内視鏡的役割に大きなやりがいを感じますし、何より、交渉相手や守るべき人が実際に見えると防衛事務官としての士気がぐっと高まります。



M E S S A G E

志望者へのメッセージ

隣の芝は青いとはよく言ったものです。とりわけ就職活動期間中は誰もがナイーブになるので、周りの人たちがとても立派に見え、比較すると言われてもついつい自分と見比べてしまうのは仕方のないことだと思います。ただ、そこで凹むべからず(私は凹みまくりでしたが)。入省前の皆さんに求められているのは高尚な専門知識などではありません。手本のごとく整った優等生の履歴書を目指すよりも、あなただけの物語を、ぶれない自分軸を、ぜひ大切にしてください。

他省庁への出向

外務省に出向したから できる経験

日米地位協定は、我が国に駐留する在日米軍の円滑な活動を確保するためのものであり、例えば、我が国で実施される日米共同訓練は、同協定に基づき行われています。私の主な業務は、日米地位協定の規定を解釈し、共同訓練を含む在日米軍の様々な活動が同協定に基づき実施されていることを確認することです。我が国を取り巻く安全保障環境がますます厳しさを増す中で、在日米軍の運用も多種多様化しているため、日米地位協定の切り口からどのように考えるかということも複雑化している大変さがありますが、外務省に出向しなければできない経験があります。私は、出向前にも在日米軍の活動に関連する業務に携わってききましたが、それらの活動を日米地位協定という法的観点から考えることは、同条約を所掌する外務省ならではの経験であり、大変勉強になっています。



外務省北米局
日米地位協定室
2018年入省

M E S S A G E

志望者へのメッセージ

外部機関から客観視して強く感じていることですが、防衛省は官公庁の中で新しい組織ではあるものの、昨今の安全保障環境を受けてその役割は急激に重要性を増しています。これに伴い、組織を支える職員的重要性も増していることは論を待たず、これからの我が国の安全保障のために、フレッシュな皆さんのお力をぜひお借りできればと思います。

国家安全保障局で 幅広い知見を得る醍醐味

訪日する外国政府要人と当局幹部との協議を調整する渉外業務が主な業務のひとつです。東京にある各国の大使館(在京大使館)の担当者と日時や議題などの調整を行うほか、当日スムーズに協議を実施できるよう、会場設営や来訪者の確認まで抜かりなく行うことが求められます。そのほかに、協議の際の通訳業務や各種資料の翻訳業務も担っています。国家安全保障局では、我が国の安全保障に関する基本方針である「国家安全保障戦略」を策定し、政府全体で立体的かつ多角的なアプローチで安全保障を考え、外交・防衛・経済政策の基本方針に関する企画立案などを実施しています。このような組織での勤務経験は、今後防衛省に戻ってからも役立つと確信しています。また、国家安全保障局は防衛省、外務省や経済産業省など各省庁の出向者から成る組織であるため、多様なバックグラウンドを持つ方々とともに働き、幅広い知見を得ることができる点もひとつの魅力です。



内閣官房
国家安全保障局
2017年入省

M E S S A G E

志望者へのメッセージ

防衛省専門職は、高い語学力やグローバルな視点を活かして、内部部局、防衛装備庁や地方防衛局などの様々な機関において活躍できることに加え、内閣官房や外務省をはじめとした他省庁へ出向する機会もあり、幅広い業務経験を積むことができます。新しい業務にも果敢にチャレンジし、何事にも意欲的に取り組む熱い志を持った皆さんと一緒に働くことを楽しみにしています。

職員のある一日

TIME LINE

- 09:30 出勤、メールの確認**
対応が必要な事柄を確認し、1日の優先順位を考えます。またカウンターパートである日米軍は出勤時間が早いため、連絡がつきやすい朝に可能な限りメールや電話をします。
- 10:00 班の総括業務**
1日を通して、他課や他班からの問い合わせや各種依頼などに適宜対応します。他課との調整などを通して、防衛省全体の取組や所掌も学ぶことができ、特に若手の間は勉強になります。
- 11:00 通訳を予定している会議の事前勉強**
会議担当者から通訳当日の流れや背景知識・経緯について教えてもらいます。普段の業務では携わることのない案件に関する会議もあるので、新たな気づきや学びがあるのも通訳支援の面白さです。
- 12:00 ランチタイム**
お弁当を持参して省内で食べたり、防衛省の周辺のお店を開拓したりして、同期や先輩と充実した時間を過ごしています。現在は外部の通訳学校にて週2回研修を受けているので、研修後のランチのお店探しも楽しみです。
- 13:00 資料作成**
日米間で毎月開催している会議に向けて、日本側として発言する内容を他課や他省庁と調整します。案件の事実確認や経緯を踏まえ、米国側へ伝えたい内容を整理していきます。
- 13:30 専門職勉強会**
地方協力局の先輩職員の方々講師として毎週テーマを決めて勉強会を開催してくれます。外部の通訳研修とは違い、先輩たちが実際に対応した事例や、困ったエピソードも聞くことができ、毎回学びが多いです。
- 14:00 上司と打ち合わせ**
他課や他省庁で作成した発言内容を上司に確認してもらいます。日々の米軍との調整状況や、今後の方向性についても話し合います。
- 19:00 通訳準備**
優先度の高い業務を終えた後、翌日以降の通訳準備に取りかかります。出席者の肩書や頻出する表現・単語の確認をします。初めて通訳をした際には、先輩と一緒に準備を手伝ってくれました。
- 20:15 退庁**
明日することをあらかじめ確認してから帰ります。繁忙期でない時は19時過ぎに帰ることもあります。



地方協力局在日米軍協力課係員
2023年入省



仕事内容は？

毎月、日米地位協定の実施に関して、外務省と一緒に在日米軍との会議を開催しています。不測事態に関する案件から共同訓練に関わるものまで様々な内容を扱いますが、日米調整の内容が記録として残り、今後の政府の方針の根拠にもなり得るため、関係者と慎重に作成します。この会議で締結する日米間の合意については、何ヶ月も前から調整しています。

意識していることは？

在日米軍協力課は、米軍との連絡調整を総括する部署であるため、班の一人ひとりが一度に複数の案件をフォローします。そのため、当該案件の関係者には、適宜、情報共有、相談、報告をするよう心がけています。随時、調整状況をホワイトボードを使って更新したり、他課と状況を共有したりと、組織の目標達成が少しでも円滑に進むよう意識しています。

退勤後の過ごし方は？

退庁後は、週3、4回ジムに行ったりリフレッシュしています。自分が担当する会議の開催直前期は集中して勤務し、業務が落ち着いている時は時間休や有休を取れるため、メリハリのある働き方です。平日開催のライブや旅行などの計画を立てやすいのが嬉しいです。職場の同期とは、登山、山手線徒歩一周、ドライブをしたりと仲良くしています。

ワークライフバランスを支える制度

年次休暇	特別休暇
<ul style="list-style-type: none"> 4月1日採用の場合、採用の年は15日。残日数は翌年に繰越(20日まで)。時間単位で取得可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 年末年始 / 夏季 / 結婚 / 忌引き / 人間ドック検診 等

GW・夏季・年末年始などに合わせた年次休暇の取得を推奨し、長期で休暇がとれるように取り組んでいます！

出産に関する休暇	COLUMN
<ul style="list-style-type: none"> 産前・産後特別休暇 / 配偶者の出産特別休暇 / 妊産婦の保健指導・健康診断のための特別休暇 / 妊娠中の休息・補食のための特別休暇 / 通勤緩和のための特別休暇 / 出生サポート(不妊治療に係る通院等)のための特別休暇 	<p>防衛省では、子育てをしながら働く全ての職員が、不安なく育児と仕事を両立できるよう、様々な取組を実施しています。</p> <p>内局職員のための 自休サポート プロジェクト ★199★</p> <p>(育児中の職員向けのセミナー・交流会イベントに事務次官も参加)</p>

育児参加のために利用できる制度
<ul style="list-style-type: none"> 育児休業 / 育児短時間勤務 / 育児時間 / 育児参加のための特別休暇 / 保育時間確保のための特別休暇 / 子の看護のための特別休暇

その他の制度
<ul style="list-style-type: none"> 介護休暇 / 配偶者同行休業 / フレックスタイム制 / テレワーク / 早出遅出勤務 / 超過勤務の制限 等

育児後も働きたい...様々な働き方に応じてくれる職場です。

一日のタイムスケジュール
<ul style="list-style-type: none"> 06:15 起床 07:00 出勤(朝の長男の送迎は夫(南関東防衛局勤務(当時)が担当) 07:45 勤務開始 16:30 退庁 17:15 長男を迎え 18:00 夕食 19:30 夫帰宅 20:00 夫と長男が入浴している間に部屋の片付け 21:00 長男寝かしつけ 21:30~ 入浴、明日の弁当の用意後、自分の時間(読書、英語の勉強、休息など) 24:00 就寝

取得した休暇などの制度
<ul style="list-style-type: none"> ●育児時間 復職時~2ヶ月程度利用。業務多忙のため、途中から早出遅出勤務に切り替えました。 ●早出遅出勤務 育児時間の利用終了後、7:45~16:30の早出勤務に切り替え、フルタイム勤務にしました。長男の朝の送迎を夫、夕方の迎えを私が担当し、お互いフルタイム勤務ができるようになりました。 ●テレワーク 必要な時に適宜 ●フレックスタイム制 1週間海外出張(デンマーク)に行った際、夫が利用。5日間、1日2時間定時より早く帰り、その分の10時間を翌週以降、残業することによって相殺することができたため、年休を使わずに済みました。 ●病気休暇 長女妊娠中、妊娠悪阻のため、約2ヶ月休暇を取得しました。 ●妊娠中の職員の通勤緩和のための特別休暇



育児休業中
2012年入省

育児休業中に感じていることは？

長男が1歳3ヶ月の時に復職し、約1年間、前職(防衛装備庁装備政策部装備安全管理官付)で勤務し、現在は長女の育児のため休業中です。前職では、周りの方々や制度によって支えられていたことを実感しています。子供が生まれると、定時後の対応や海外出張はできないと思っていましたが、防衛省職員の夫にも必要に応じて制度を利用してもらうことにより、20時以降開始の米国のカウンターパートとのオンライン会議や、1週間のデンマーク出張にも対応できました。また、子供の体調不良等の際は、テレワークに切り替えるなど、周囲の方からもご配慮いただきました。子供が小さいうちは独身の頃と同じようには働くことは難しくなっていますが、制度を活用しつつ、配偶者といかに協力するかが大切だと思います。

育児と仕事の両立を考えている方へ

妊娠、出産により、前職、前々職ともに約1年しかそれぞれの部署での勤務ができず、また特に長女妊娠中は、妊娠悪阻のため、約2ヶ月病気休暇を取得したりと、独身の頃にはなかった制約が生じました。心身ともに疲弊したり、働くことに罪悪感を感じたりもしましたが、ひとつだけ間違いなく言えることは、育児とは楽しいものだということです。これからは今以上に様々な働き方が可能になっていくと思われるので、一緒に頑張っていきたいと思います。

試験概要・採用担当のメッセージ

試験概要

●採用試験スケジュール例



●試験区分 英語

●試験方法

	試験種目	内容
第1次試験	基礎能力試験	公務員として必要な基礎的な能力(知能及び知識)についての筆記試験 【多肢選択式】知能分野24題(文章理解⑩、判断推理⑦、数的推理④、資料解釈③) 知識分野6題(自然・人文・社会に関する時事、情報⑥)
	専門試験(英語)	各試験区分に応じて必要な専門的知識などについての筆記試験 【記述式】英語:英文解釈、語彙問題、英文法、英作文
	論文試験	課題に対する総合的な判断力、思考力及び表現力についての筆記試験
第2次試験	口述試験	人柄、対人的能力などについての個別面接
	身体検査	主として胸部疾患(胸部エックス線撮影を含む)、尿、その他一般内科系検査

●受験資格

- 試験年度の4月1日における年齢が21歳以上30歳未満の者。
- 試験年度の4月1日における年齢が21歳未満の者で次に掲げるもの。
 - 大学を卒業した者及び試験年度の3月までに大学を卒業する見込みの者並びに防衛省がこれらの者と同等の資格があると認める者。
 - 短期大学又は高等専門学校を卒業した者及び試験年度の3月までに短期大学又は高等専門学校を卒業する見込みの者並びに、防衛省がこれらの者と同等の資格があると認める者。

※防衛省専門職採用試験の詳細な情報については、必ず防衛省ホームページ(採用情報)で最新の情報をご確認下さい。

●どのような人物像が求められていますか?

安全保障上の課題が複雑化・多様化する今日において、防衛省・自衛隊の国際的な取組は広がりを見せています。そのような中で、①グローバルな視野と英語力を活かして、安全保障政策に貢献したいという想いのある方、②組織の中で主体的に考え、物事を進めることができる方、③コミュニケーション能力があり、国内外のカウンターパートと円滑に調整できる方を求めています。

●本省内部部局勤務の総合職・一般職と比べて、どのような違いがありますか?

防衛政策の企画立案に携わるとい点では総合職・一般職と同じですが、米国をはじめとした諸外国との防衛協力・交流といった英語力を要する国際的な防衛行政に主に携わることになります。また、中には若手のうちから翻訳業務や通訳業務に従事する職員もいるほか、高度な通訳技能を有する場合には大臣等の高官の通訳を担うチャンスもあります。

●過去の試験問題は入手できますか?

情報公開制度に基づいて請求することができます。詳細は、防衛省ホームページをご確認下さい。
※お手元に届くまでに、2ヶ月程度かかりますので、ご注意ください。 ※論文試験問題は、防衛省ホームページにて公表しております。

●留学経験・海外生活経験がないのですが、採用されますか?

留学経験・海外生活経験のある職員もいますが、経験の有無により採用の可否を判断することはありません。これまでの経歴に関わらず、専門職の業務に関心のある方は、積極的に対応いただければと思います。なお、入省後も海外留学・海外勤務の機会が設けられています。

●どれくらいの英語力が必要とされますか?

採用時においては、採用試験に合格できる英語力があれば十分ですが、入省後は、諸外国との調整や通訳業務を行うための高度な英語力が求められます。入省後の通訳研修や実際の業務経験を通じ、英語力をより高めていくことになります。

●安全保障や防衛行政に関する専門知識は必要ですか?

業務を通じて身につけていくこととなりますので、入省前から必ずしも専門的な知識が必要というわけではありません。学生時代に他分野を専攻していた職員も、入省後に日々専門知識を勉強し、政策の企画立案にも従事しています。

●既卒でも採用されますか?

本省内部部局専門職は、新卒のみならず、既卒の方や社会人経験のある方も採用されており、様々なバックグラウンドを持つ職員が活躍しています。受験資格を満たしていれば、学歴や新卒・既卒、年齢等は採用の選考基準とはなりません。受験資格の詳細については、防衛省ホームページをご確認下さい。

採用担当のメッセージ

国防と聞くと大それたことのように聞こえるかもしれませんが、その本質は、人々の笑顔を守りたい、という人を想いやる気持ちにあります。

日本は今、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面していると言われています。日本の周辺では軍事活動が活発化しており、世界の他の地域で起こっている紛争が、いつ日本周辺で起こっても不思議ではありません。

国防の在り方も変化してきており、大規模なミサイル攻撃、無人機等による攻撃、情報戦といった新しい戦い方にも対応していく必要があります。

この安全保障の転換期に、英語力やグローバルな経験を活かして、国際的な安全保障行政を中心に活躍しているのが防衛省専門職です。市ヶ谷の本省を軸としつつも、世界を舞台に活躍することが期待されており、めまぐるしく変わる安全保障環境において、その役割が拡大しています。

広がり続ける安全保障というフィールドで、日本と世界をつなぐ、そんなダイナミックな仕事にチャレンジしてみませんか。

防衛省大臣官房秘書課
防衛省専門職本省内部部局(安全保障行政)採用担当

